

韓国特集 昭和興産韓国、成長戦略の重要拠点担う

2026年9月17日

韓国特集（2026年）



矢尾智社長

2023年12月に昭和興産グループ6番目の海外拠点として設立された昭和興産韓国。全社の重点領域である「モビリティ・情報電子」「ライフサイエンス」「インフラ」に照準を合わせ、韓国市場での事業拡大を進めている。矢尾智社長は「半導体や電気自動車（EV）など先端分野の情報発信に加え、グループの海外拠点とも綿密に連携し、収益拡大に貢献していきたい」と意欲を示す。

韓国では従来、染料や界面活性剤などの化学品を現地商社を介して販売してきた。現法設立を機に、電池や半導体といった成長産業へ本格的に事業領域を広げる方針だ。

足元では、韓国市場の潤滑油添加剤向け商材の取り扱いが軌道に乗り始めた。今年からは韓国メーカー製樹脂の日本市場向け販売という従来と逆向きの取引も開始し、新たな収益の柱として育成するとともに、双方向の商流取り扱いにより事業基盤を強化する。今後は半導体の製造工程で使用する工程部材の取り扱いも始める計画だ。モビリティの視点でEV向けの放熱剤なども扱っていく。

ライフサイエンス分野でも事業機会は大きい。日本の化粧品市場向けに、韓国メーカー製の特徴ある容器の供給を来年から開始する。バイオスティミュラントでは海外製品の韓国市場展開を模索するとともに、特色ある韓国製品を発掘し、日本市場へ投入する。

物流・法規制対応など事業インフラの整備も着実に進めてきた。25年には釜山近郊に危険物対応倉庫を確保し、今年は平澤で半導体関連材料を保管できる倉庫を新たに確保した。韓国の化学物質管理制度「K-REACH」についても新規化学品の登録代行が可能な体制を構築した。

昭和興産グループは27年度から新たな中期経営計画を始動する。矢尾社長は「韓国市場の変化を的確に捉え、商機を確実につかんでいきたい」と話し、現地拠点を成長戦略の重要な拠点へ育てる考えを示した。